

# レディーミクストコンクリート配合計画書

No. \_\_\_\_\_

2025年 4月 1日

平成生コン(株) 殿

(社印省略)  
平成生コン株式会社  
広島市安佐南区祇園三丁目21番22号  
(TEL) 082-874-1919  
配合計画者名 永岡 正芳

工事名称	工組HP掲載配合計画書2025年度
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月1日～5月31日, 10月1日～12月10日 左記以外の期間は備考欄に記述(標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラング又はスラングフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
指定事項(必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項(任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	— kg/m <sup>3</sup>
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度		コンクリートの温度	— °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は水結材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	— kg/m <sup>3</sup>
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	— kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	28日		流動化後のスラング又はスラングフローの増大量	— cm
空気量	4.5 %				

## 使用材料

セメント	生産者名	株式会社 トクヤマ	密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> O eq %	—			
混和材①	製品名	—	種類	—	密度 g/cm <sup>3</sup>	—			
混和材②	製品名	—	種類	—	Na <sub>2</sub> O eq %	—			
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性による区分	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>		微粒分量の範囲%
				区分 試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	砂	大島郡周防大島町大字東三浦	A 化学法	5	2.77	2.48	2.54	3.0以下
骨材	②	石灰砕砂	大分県津久見市上青江戸高鉾山	A モルタルバー法	5以下	2.88	2.64	2.67	7.0±2.0
粗骨材	①	石灰砕石2005	大分県津久見市上青江戸高鉾山	A モルタルバー法	20～5	6.67	2.70	2.70	1.0±1.0
骨材	②	—	—	—	—	—	—	—	—
骨材	③	—	—	—	—	—	—	—	—
骨材	④	—	—	—	—	—	—	—	—
混和剤①		フローリック SL20S		AE減水剤(標準形I種)			Na <sub>2</sub> O eq %		0.6
混和剤②	製品名	—	種類	—			—		—
混和剤③	製品名	—	種類	—			—		—
細骨材の塩化物量	①0.000%			水の種類	回収水(スラッジ水)	目標スラッジ固形分率	3 %以下		
回収骨材の使用法	細骨材	—	粗骨材	—	スラッジ水の使用法	A方法			

## 配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
333	—	—	175	518	232	—	1023	—	—	—	2.13	—	—
水セメント比	52.5 %			水結材比	— %				細骨材率	43.4 %			

備考 骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合があります。修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ変更致します。  
夏期6/1～9/30 +0.20%、冬期12/11～2/29 -0.10% (AE減水剤)  
地下水使用時の混和剤添加量はC×(S-0.15)%となる (AE減水剤)

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号 普通	呼び強度 27	スランブ又はスランブフォーム cm 12	粗骨材の最大寸法 mm 20	セメントの種類による記号 BB
指定事項	W/C ≤ 55% AIR=4.5% 材齢28日				
(1) 変動係数(v)	当工場の実績により v = 10 %				
(2) 配合強度(m)	$m_1 = \frac{0.850 \cdot SL}{1 - \frac{3.0 \cdot V}{100}} = 32.8 \text{ N/mm}^2$ $m_2 = \frac{SL}{1 - \frac{2.0 \cdot V}{100}} = 33.8 \text{ N/mm}^2$ よって m = 33.8 N/mm <sup>2</sup>				
(3) 水セメント比(W/C)	$m = -18.8 + 27.8 \times C/W$ $W/C = 27.8 \div (33.8 + 18.8) \times 100 = 52.5 \% \leq \text{【55\% (上限値)】}$ $\therefore W/C = 52.5 \%$				
(4) 単位水量(W)	当工場の実績により W = 175 kg/m <sup>3</sup>				
(5) 単位セメント量(C)	$C = W \div (W/C) \times 100 = 175 \div 52.5 \times 100 = 333 \text{ kg/m}^3$ $C_v = C \div \text{密度} = 333 \div 3.04 = 110 \text{ } \ell/\text{m}^3$				
(6) 空気量(A)	A = 4.5 % × 1000 = 45 ℓ/m <sup>3</sup>				
(7) 単位粗骨材量(G)	当工場の実績により かさ容積 = 0.642 m <sup>3</sup> /m <sup>3</sup> 実積率 = 59.0 % $G_v = 0.642 \times 1000 \times 59.0 \div 100 = 379 \text{ } \ell/\text{m}^3$ $G = G_v \times \text{表乾密度} = 379 \times 2.70 = 1023 \text{ kg/m}^3$				
(8) 単位細骨材量(S)	$S_v = 1000 - (W + C_v + G_v + A) = 1000 - 709 = 291 \text{ } \ell/\text{m}^3$ $S_{1v} = S_v \times 70.0 \% = 204 \text{ } \ell/\text{m}^3$ $S_{2v} = S_v \times 30.0 \% = 87 \text{ } \ell/\text{m}^3$ $S_1 = S_{1v} \times \text{表乾密度} = 204 \times 2.54 = 518 \text{ kg/m}^3$ $S_2 = S_{2v} \times \text{表乾密度} = 87 \times 2.67 = 232 \text{ kg/m}^3$				
(9) 細骨材率(s/a)	s/a = S <sub>v</sub> ÷ (G <sub>v</sub> + S <sub>v</sub> ) × 100 = 43.4 %				
(10) 単位混和剤量(Ad)	Ad = C × 添加率 × 密度 = 333 × 0.6400 % × 1.00 = 2.13 kg/m <sup>3</sup>				

配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
333	—	—	175	518	232	—	1023	—	—	—	2.13	—	—
水セメント比	52.5 %		細骨材率	43.4 %			骨材混合比	細骨材①:②				70.0:30.0	

備考